湿地で観察

Point1 自然の湿地を観る

P. 34では、湿地を貧栄養な自然の湿地と、富栄養な放棄田や水田の湿地に区別して説明しました。自然の湿地は大阪府ではかなり特殊な環境で、能勢町の地黄や剣尾山、四條畷市の室池周辺、和泉市の信太山など数カ所に限られています。いずれも規模が小さく、中に入っての観察はすぐに環境の破壊につながってしまいます。水がどこからくるのかとか、周囲の植物と湿地の植物を比べるなど、湿地周辺からの観察にとどめましょう。

このような湿地には水の流れ込みは少ないですが、山の斜面などからしみだした水が一年中かれることなく供給されています。湿地部分の下の土はおそらく粘土質で、水がしみ込みにくい構造になっていると考えられます。その上に泥が堆積していますが、水は常に少しずつ流れているので、泥の栄養分も流されて少なく、植物の生育にはあまり適していないのです。そのことは、湿地の周辺では樹木やススキなどが大きく育っているのに、湿地内の植物は小さく弱そうにみえることからも想像できます。サギソウやトキソウなどの湿地特有の植物は、このような栄養条件の悪い場所を選ぶことで、他の植物との競争を避けていると考えられています。

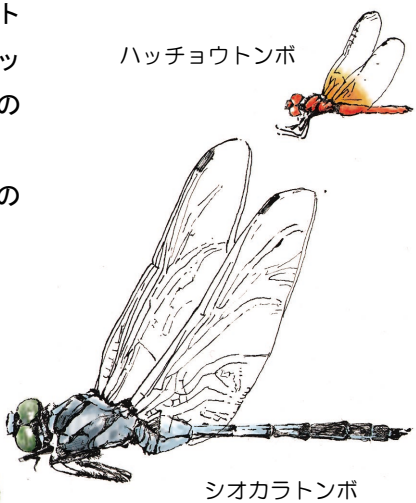
169. 自然の湿地（地黄湿地）

169. 財団法人 大阪みどりのトラスト協会

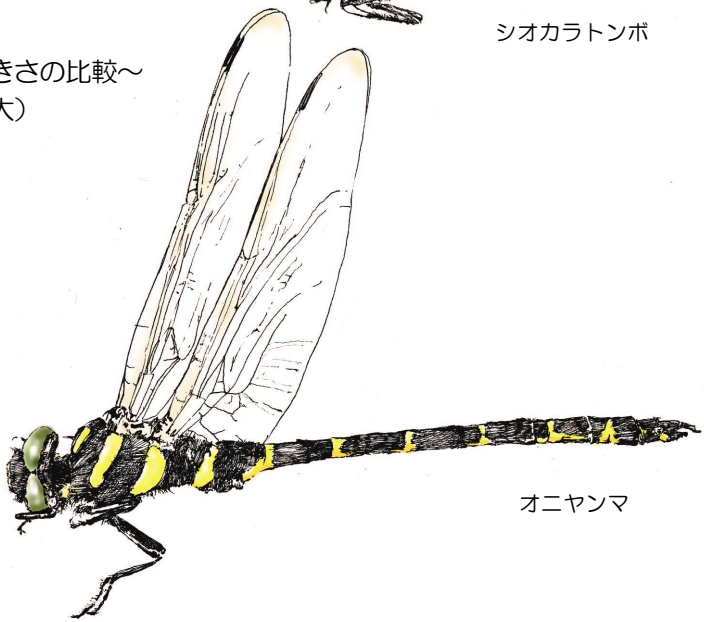
湿地特有のハッチョウトンボの場合にも、同じように考えることができるでしょうか。例えば、P.66で話題にした水生植物やトンボの多い池でも、ハッチョウトンボは生活できるはずですが、実際には、小さなこのトンボは他の大きなトンボ（ハッチョウトンボからみると、シオカラトンボでも巨大なトンボです）にすぐに食べられてしまいます。幼虫も同じことで、他のトンボの幼虫のエサになってしまうでしょう。水があまり無い湿地では、他の大きなトンボの幼虫は生活しにくいため、小さなハッチョウトンボにとっては都合のよい環境なのです。

ハッチョウトンボもやはり、他の生きものとの競争を避（さ）けて湿地環境にたよっている生きものということができます。

このような湿地がなくなることは、サギソウやハッチョウトンボがすむ場所を失うことを意味しています。



～トンボの大きさの比較～
（原寸大）



Point2 湿地で採る

収穫するために米作りがされている水田に入ってはいけませんが、山間などで放置された放棄田（休耕田）になら、荒らさないように注意して入ってみましょう。

泥の深い場所があるので、子供は、大人の人と一緒に行動しましょう。

釣り具店などで売っている水アミなどを持って水の中をすくったり、カエルなどをつかまえてみましょう。場所にもよりますが、このような環境ではトノサマガエルをはじめヌマガエル、アマガエル、アカハライモリなどがよくみられます。北摂地域の一部では、ダルマガエルというトノサマガエルに似た珍しいカエルもすんでいます。カエルをエサとしているヤマカガシやシマヘビなどをみることもあります。クサガメやイシガメなどもみられ、昔の水田の面影を感じることができます。このような生きものは、昔は水田地帯にたくさんいましたが、農業の形態が変わったり農薬の影響などによって、今では大変少なくなってしまいました。特に、越冬場所が減ったり乾いたりした影響が大きいようです。これらの観察には、初夏から夏の時期が適しています。ときには毒ヘビのマムシなどもいるので注意しましょう。

活動する生きものが少ない早春（３月頃）に、湿地や放棄田（休耕田）、水田などにやってくる両生類がいます。カスミサンショウウオやアカガエルなどで、普段は周辺の林の中にすみ、このころにだけ産卵に集まるのです。いずれも、浅い水の中に寒天質に包まれた細長い卵のうや卵塊（卵のサヤやかたまり）を産み、親の姿も近くでみつけることができます。まだ寒いこんな時期に活動するこれらの生きものを観察することは、大きな驚きでもあります。

カエルやヘビなどの小動物以外にも、放棄田（休耕田）には多くの昆虫などがすんでいます。代表的なものはゲンゴロウやクロゲンゴロウ、シマゲンゴロウなどのゲンゴロウの仲間、ミズスマシ、タガメ、タイコウチ、オオコオイムシ、トンボ類などです。ゲンゴロウは、残念ながら大阪府に生息しているという記録がしばらくなく、レッドデータブックでは絶滅危惧種としてあげられています。体の大きなタガメは幸いなことに、北摂地域ではまだ少しみることができます。

このように、湿地は多くの貴重な生きもののすむ場所として大切な環境です。ぜひともまもっていきたいものです。

170,171,177. 森 正人　172. 宇都宮 靖博　173. 北山 昭　174,175. 佐々木 凡子

170. 放棄田（休耕田）

171	172	173
174	175	176
	177	178

171. ゲンゴロウ　172. クサガメ　173. ダルマガエル　174. シマヘビ（成蛇）
175. アマガエル　176. マムシ　177. アカハライモリ　178. タイコウチ

176. 佐藤 亮　178. 佐々木 祐二